

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月20日）、定例理事会を2回（6月4日・3月19日）のほか、臨時評議員会を2回（8月21日・3月27日）、臨時理事会を2回（6月20日・8月20日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行った。また指定管理期間が満了となった宮崎科学技術館、大淀川学習館、宮崎市歴史資料館については、新たな指定管理期間（令和2年度～令和4年度）における指定管理者として、市から指定を受けた。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

全職員研修、接遇マナー研修、特別研修（防災・救命研修、人権研修）などを実施した。

研修回数	22回	職員参加者数	延べ 191人
------	-----	--------	---------

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、影山医師に産業医として委嘱、産業医による健康相談を各施設で合計4回実施した。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

（1）給与処遇の改善

多額の決算余剰金が見込まれる場合に決算一時金として職員に還元できる仕組みを検討し、就業規則の一部改正を行い決算一時金の規定を新設した。さらに、令和2年3月30日に常勤役員及び市からの派遣職員を除くすべての協会職員（舞台技術職員、無期転換職員、契約職員、非常勤職員、臨時職員）に決算一時金を支給した。

併せて、契約職員の給料表について、令和元年度の人事院勧告改定率を反映させた給料表改定を行い、令和2年4月1日から施行した。

（2）協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・綾町・国富町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育園・宮崎銀行各支店・小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各6,000部（年4回）

(3) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。11月に意見交換会を実施し、各種事業や各施設の改善点等を報告した。

なお、毎年意見交換会は2回実施しているが、今年3月に予定していた意見交換会はコロナの影響のため中止となった。

意見交換会 1回 モニター人数 20人

(4) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

なお、令和2年3月26日(木)天ヶ城歴史民俗資料館で予定していた音楽会は、新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。

実施回数 5回 参加者数 延べ 602人

(5) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験することで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心をもつとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 17人

(6) 教育施設としての施設利用推進事業

学校利用ガイドブック改訂についてのアンケート調査を各小中学校に行った。

実施回数 1回 配布学校数 96校

(7) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和2年2月21日(金)に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。

研究本数 12本 研究者数 延べ14人

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成31年度においても展示室、パソコン研修及びプラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	281日	プラネタリウム投映日数	277日
入館者数	143,430人	利用者数	62,692人
1日平均入場者数	510人	1日平均利用者数	226人

※台風による臨時休館 1日間及び午前・午後各1回

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館 23日間（3/5～3/31、

プラネタリウム投映中止は3/4～3/31）

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	74,969人（52.3%）
大人	68,461人（47.7%）
合計	143,430人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	121,438人（84.7%）
団体	21,992人（15.3%）
合計	143,430人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	6,389人（45.8%）
小学校	5,673人（40.6%）
中学校	542人（3.9%）
高等学校	23人（0.2%）
一般（参考）	1,334人（9.5%）
合計	13,961人

・広域圏外

幼稚園・保育所	663人（9.5%）
小学校	4,121人（59.2%）
中学校	68人（1.0%）
高等学校	0人（0%）
一般（参考）	2,109人（30.3%）
合計	6,961人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育所	342 人 (32.0%)
小学校	221 人 (20.6%)
中学校	0 人 (0%)
一般 (参考)	507 人 (47.4%)
合 計	1,070 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	24	926	86.5
四国	1	40	3.7
中国	0	0	0.0
関西	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	2	52	4.9
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
台湾	1	31	2.9
ブラジル	1	21	2.0
合計	29	1,070	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	4	162	17.5
大分	2	81	8.7
鹿児島	17	658	71.1
沖縄	1	25	2.7
合計	24	926	100.0

2 常設展示事業

アポロ 11 号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物のほか、先端科学技術を集約した展示物は約 100 点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を深めさせることができた。

特に、経年劣化が見られる展示物については、コストを抑えつつ修繕を行うなど、最大限の維持と活用に努めた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学の芽」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSC（教育ボランティア）や宮崎大学のボランティア学生とともに実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数	30回	参加者数	延べ	4,710人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	155人
③ 生きがい科学館	実施回数	8回	参加者数	延べ	95人
④ 不思議なサイエンスショー	実施回数	9回	参加者数	延べ	1,067人
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	20回	参加者数	延べ	888人
⑥ どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	161人
⑦ 科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	200人
⑧ 自由研究サポート教室	実施回数	3回	参加者数	延べ	3人

⑨	なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	18回	参加者数	延べ	1,378人
⑩	コスモランド教室	実施回数	12回	参加者数	延べ	2,377人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	57人

(2) パソコン講座

子ども達がパソコンに対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施した。

すいすいパソコン 実施回数 26回 参加者数 延べ 966人

(3) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学生向けの学習プログラムを行った。大変多くの応募があり、事後の感想も好評であった。夏休みの自由研究の題材として月の記録方法なども解説をした。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	延べ	393人
	小学6年生対象	2回	参加者数	延べ	225人
	中学生対象	1回	参加者数	延べ	14人

4 プラネタリウム事業

九州最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。令和2年3月4日(水)～3月31日(火)の期間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館となった。

入場者数 延べ 58,400人
 投映回数 929回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組

「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」

「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」

「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」、「太陽」

- ・平成30年度から引き続き投映した番組

「ちびまる子ちゃん」「ポケットモンスター サン&ムーン」

「ノーマン・ザ・スノーマン2」「こぐま座のティオ」

- ・平成30年度・令和元年度から投映した新番組

「忍たま乱太郎 月ウサギがクレーターをかけるの段」

「えんとつ町のプペル」「宇宙への第一歩」「しまじろうとお月さまのひみつ」

(2) 学習番組

「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)

「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)

「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主製作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらよう努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 659人

※ 3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(5) おはよう太陽・月の観望会

夏休み期間中に、午前中に見える日中の太陽・月を望遠鏡で観望した。日中の青空の中に見える白い月に、子ども達が驚く様子が見られた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 90人

(6) スターウォッチング教室

宮崎市、綾町、国富町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもっていただくように努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 610人

(7) スターウォッチング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地（橘通3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場、生目の杜古墳公園、宮崎公立大学）で観望会を実施した。多くの市民が月や星の輝きの美しさを堪能でき、天文へ興味をもっていただいた。

実施回数 3回 参加者数 延べ 1,521人

※ 3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(8) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 5回 参加者数 延べ 959人

※ 3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(9) 特別投映

神武大祭に合わせて、特別投映を行った。当館の自主制作番組「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」を投映し、合わせて天文と日向神話の親和性について職員が準備した映像等で解説を行った。

実施回数 6回 参加者数 延べ 120人

(10) 部分日食観望会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として「部分日食」の観望会を計画したが、天候不良のため中止した。

(11) 星空継続観察事業「みやざき星空大調査」

環境省の推進する星空継続観察事業の一環として、星空観察を通じて光害（ひかりがい）や大気汚染等に気づき、環境保全の重要性について関心を深めていただくこと、良好な大気環境や美しい星空を地域資源（観光や教育）としても活用していただくことを目的に観察会を行った。

開催期日 令和2年 1月18日（土）

入場者数 子ども 36人 大人 37人 計 73人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家の活動の場を提供するとともに、市民文化活動高場に資するため、プラネタリウムホールで開催した。音楽の生演奏と星の解説、そしてCD音楽の解説という3部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 326人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもらおうと、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでもらった。

実施回数 2回 参加者数 延べ 337人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、閉館後の時間帯に、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。職員でテーマに合わせた映像や参加型の企画を準備し、来館者が、より星空に親しめる内容にした。更に、希望者には屋外で星空観望会も実施した。本年度は新たな試みとして、香りで演出する「アロマプラネタリウム」を実施し、好評を得た。

実施回数 3回 参加者数 延べ 605人

(4) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、「太陽」をテーマに、太陽の特徴や日食についてのパネルの展示に加え、ロケット打上げ音響体験、全天周ドームシアター、塗り絵コーナーなど体験型ブースも設置した。天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらえるよう努めた。

実施回数 1回（16日間） 参加者数 延べ 8,012人

(5) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子ども達の情操教育を目的として、幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを毎月、実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映し、動画等の映像による演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 11回 参加者数 延べ 676人

※ 3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(6) キッズ・プラネタリウム

子育て世代のプラネタリウム利用と、子育て支援を目的として、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容で星や星座の紹介を行った。

実施回数 6回 参加者数 延べ 677人

(7) ミニアポロ展

アポロ月面着陸50周年を記念して、月面探査機に関するミニ企画展を実施し、科学技術の発展や天文教育を啓発する機会とした。

開催期日 令和元年 6月26日(水)～9月1日(日)

入場者数 子ども 17,729人 大人 15,597人 計 33,326人

6 イベント事業

(1) 主催事業

① こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。また、招待した園児には手作りのこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 令和元年 4月12日(金)

入場者数 子ども 63人、大人 19人 計 82人

② 「科学と遊ぼう！こどもの日」

全館を無料開放し、こどもの日にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 令和元年 5月 5日(日・祝)

入場者数 延べ 3,176人

③ 地球を守ろう環境展(第11回)

地球環境についての興味・関心を高めてもらうために、「第18回 JQA 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品」を50点展示に加え、科学技術映像祭入選作品「NNN ドキュメント17 プラス4℃の世界」を上映した。また、みやざきエコの会及び当館職員によるワークショップ行うことで充実した内容になった。

開催期日 企画展 令和元年 6月 2日(日)～ 6月23日(日)

ワークショップ 令和元年6月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、22日(土)

入場者数 子ども 1,398人、大人 1,368人 延べ 2,766人

④第60回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選6作品を上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 令和元年 7月20日(土)～ 9月 1日(日)

入場者数 延べ 39,913人

⑤スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画しサイエンスショーを開催した。

開催期日 令和元年10月14日(月・祝)、令和2年1月13日(月・祝)

入場者数 子ども 206人、大人 163人 計 369人

⑥南極パネル展及び南極の氷贈呈式実験ショー

南極にまつわるパネル展示や、南極クラスを開催し、南極の講話及び氷贈呈式を行った。また、当館の職員による南極の氷を使った実験ショーを実施した。

開催期日 パネル展 令和元年 6月29日(土)～ 7月15日(月・祝)

贈呈式 令和元年 7月14日(日)

入場者数 子ども 1,054人、大人 1,640人 延べ 2,694人

⑦命の科学フェア

「なるほど!なっとく!人体の科学ゾーン」で心臓マッサージ体験や心電図検査などと、起震車の見学など体験を通した学習を計画した。命について科学の目で考える機会となった。

開催期日 令和元年 7月21日(日)

入場者数 子ども 398人、大人 291人 計 689人

⑧青少年のための科学の祭典2019宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日 令和元年 8月 3日(土)・4日(日)

入場者数 延べ 3,171人

⑨「感謝の集い 開館記念日」

開館記念日を市民とともに祝っていただくため、全館を無料開放し、工作教室など様々な取り組みにより館内を楽しんでいただいた。

開催期日 令和元年 8月 2日(金)

入場者数 延べ 1,525人

⑩教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携を目的としたワークショップを宮崎科学技術館で行った。

開催期日 令和元年 8月 7日(水)
参加者数 教職員 28人

⑪JSCフェスティバル&科学技術館シルバーdays

敬老の日になみ、65歳以上の方と同行された家族を対象に、全館無料開放を実施した。

開催期日 令和元年 9月14日(土)～16日(月・祝)
入場者数 子ども 868人、大人 1,024人 延べ 1,892人

⑫子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。需要が高くたくさんの方の来場があった。

開催期日 令和元年 9月12日(木)
内 容 音もだちによる演奏会
参加者数 子ども 55人、大人 59人 計 114人

⑬名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題について、写真やパネルを展示した。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展が実施できた。また、多目的ホールの有効活用の方策の一つとなった。

開催期日 令和元年 9月19日(木)～10月 6日(日)
入場者数 子ども 1,179人、大人 1,255人 延べ 2,434人

⑭ナイトミュージアム

ハロウィンに合わせて、館内を夜間開館していろいろな仕掛けやクイズラリーなどを実施した。参加者には「月面着陸に成功して50年、もう一度月…」を題材に、様々な訓練と称する体験を通して楽しんでいただいた。体験には、科学の現象や館内の展示物、プラネタリウムの映像を活用した。

開催期日 令和元年10月19日(土)、26日(土)
入場者数 延べ 406人

⑮1日こども館長(事務局経営戦略課事業)

科学及び科学技術に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和元年11月16日(土) 10:00～15:00
参加費 500円(保険・昼食代込)
参加者数 4人(4年生1人、5年生2人、6年生1人)

⑩平成31年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を展示した。小・中学生から362点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日	令和元年11月21日（木）～12月15日（日）
表彰式	令和元年12月8日（日）
入場者数	子ども 1,202人、大人 1,237人 延べ 2,439人

⑪サイエンスカフェ（サイエンストーク）

各種イベントと関連のある科学者を招き、その開催時期に合わせて、サイエンスカフェを実施した。科学者と市民を結ぶ活動としてカフェテリア的なゆったりとした雰囲気の中で、科学の不思議などに触れてもらった。

開催期日	令和元年11月16日（土）
内 容	真琴「愛と癒しの周波数528の世界をみる きく 感じる」
会 場	カーリーノ宮崎 蔦屋書店2F
講 師	さいた みつこ
参加者数	大人 14人

⑫企画展「ネイチャー&テクノロジー展」

自然と技術の関係性を「自然模倣技術」「自然（生命）を守る技術」「自然を活かす技術」の3つの視点からご紹介する企画展を行った。

開催期日	平成31年 2月27日（水）～ 4月 7日（日）
入場者数	延べ 7,350人

⑬アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地の活性化の取組みを支援した。

・カーリーノアウトリーチ4月

参加者数	子ども 47人、大人 71人	延べ 118人
------	----------------	---------

・若草通り「街市」5月

参加者数	子ども 89人、大人 150人	延べ 239人
------	-----------------	---------

・若草通り「街市」7月

参加者数	子ども 62人、大人 132人	延べ 194人
------	-----------------	---------

・カーリーノアウトリーチ9月

参加者数	子ども 44人、大人 44人	延べ 88人
------	----------------	--------

・宮崎駅 鉄道の日感謝祭

参加者数	子ども 90人、大人 72人	延べ 162人
------	----------------	---------

・未来みやぎき子育て応援フェスティバル2019

参加者数	子ども 150人、大人 250人	延べ 400人
------	------------------	---------

・ガス展

参加者数	子ども 650人、大人 521人	延べ1,171人
------	------------------	----------

・カリーノアウトリーチ１１月

参加者数 子ども １８人、大人 １７人 延べ ３５人

・若草通り「街市」１１月

参加者数 子ども １２６人、大人 ２００人 延べ ３２６人

・カリーノアウトリーチ１２月

参加者数 子ども ４０人、大人 ２５人 延べ ６５人

・カリーノアウトリーチ２月

参加者数 子ども ３８人、大人 ４４人 延べ ８２人

・若草通り「街市」３月

※ ３月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑩インターンシップ、職場体験

中学生の職場体験学習及び、高校生や宮崎市のインターンシップや社会教育実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。今年度は中学校１０校、高等学校１校、専門学校１校を受け入れた。

参加者数 延べ ３６人

⑪宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する教職員初任者に対して、教育施設を活用した事業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和元年１１月１９日（火）

参加者数 ５３人

⑫宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

地域の科学館におけるフィールドワークを行い、学校外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に施設の概要及び管理運営、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 令和元年 ５月１２日（日）

参加者数 ４人

⑬科学捜査展

開催期日 令和２年 ２月２６日（水）～ ３月２９日（日）

入場者数 延べ ９０９人

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、３月１日～中止

（２）共催事業 （ ）は主催者名

①航空教室

（航空大学校）

実施日 令和元年 ７月２７日（土）、令和２年 ２月 １日（土）

入場者数 子ども ５０人、大人 ６０人 延べ １１０人

②宮崎地区サイエンスコンクール展

（科学夢チャレンジ事業宮崎地区実行委員会）

実施日 令和元年 ８月３０日（金）～ ９月 ８日（日）

入場者数 子ども ６０３人、大人 ８５１人 延べ １，４５４人

- | | |
|----------------------------|---|
| ③県学校発明くふう展
(宮崎県発明協会) | 実 施 日 令和元年10月11日(金)～ 14日(月・祝)
入場者数 子ども 455人、大人 463人 延べ 918人 |
| ④宮崎市中学校毛筆展
(宮崎市中学校書写部会) | 実 施 日 令和元年10月29日(火)～11月10日(日)
入場者数 子ども882人、大人1,025人 延べ1,907人 |
| ⑤宮崎市中学校硬筆展
(宮崎市中学校書写部会) | 実 施 日 令和2年 1月15日(水)～ 26日(日)
入場者数 子ども644人、大人645人 延べ1,289人 |
| ⑥水辺のテーブル
(水辺リング宮崎) | 実 施 日 令和元年8月23日(金)
※雨天のため中止 |

宮崎市歴史資料館

【みやざき歴史文化館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成31年度のみやざき歴史文化館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開 館 日 数	284 日
入 館 者 数	37,173 人
1 日 平 均 入 館 者 数	131 人

※台風による臨時休館 1日間及び午前・午後各1回

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館 23日間(3/5～3/31)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小 人	17,769 人 (47.8%)
大 人	19,404 人 (52.2%)
合 計	37,173 人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個 人	31,195 人 (83.9%)
団 体	5,978 人 (16.1%)
合 計	37,173 人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	1,337 人 (23.9%)
小学校	1,288 人 (23.1%)
中学校	0 人 (0%)
一般(参考)	2,960 人 (53.0%)
合 計	5,585 人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0 人 (0%)
小学校	57 人 (15.6%)
中学校	0 人 (0%)
一般(参考)	308 人 (84.4%)
合 計	365 人

④ 県外団体利用内訳

一 般	28 人 (100%)
小学校	0 人 (0%)
中学校	0 人 (0%)
合 計	28 人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
近畿	0	13	46.4
中国	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	15	53.6
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	0	28	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

宮崎の考古・歴史、民俗・民俗芸能、神話、民具等に関する資料を展示し、見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土を理解する場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展『歴史文化館のあゆみ展』

平成30年度に行った各種体験学習や本館を訪れた小学校等の説明や体験活動等の様子をパネルで紹介した。

開催期日 平成31年 4月13日(土)～令和元年 6月 2日(日)

入場者数 延べ 9,541人

(2) 夏の企画展『時の流れ～懐かしの暮らしと風景～』

令和への改元を記念して実施したもので、元号の意味や歴史について解説するコーナーを設けたほか、明治から平成までの暮らしの変遷や街並みの変化を写真パネルや民具資料、昔のおもちゃなどの展示を通してご紹介した。

開催期日 令和元年 7月20日(土)～9月 1日(日)

入場者数 延べ 5,415人

(3) 秋の企画展『記録が語る地域の歴史』

「記録」をキーワードに、宮崎市内に残る古文書や絵画などを展示し、古来地域に遺されてきた文化財や歴史に興味を持って頂く機会とした。

開催期日 令和元年10月19日(土)～12月 8日(日)

入場者数 延べ 5,567人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①宮崎の歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、専門家の方々を講師として実施した。

実施回数	5回
参加者数	延べ 176人

②古文書講座

元みやざき歴史文化館ボランティア会員等3名を講師として、『貝原養生訓』・『宮崎騒動覚書』・『漂流歸國物語』の解読演習を行った。

実施回数	16回
参加者数	延べ 378人

(2) 史跡探訪会

県内の史跡や建造物等の文化財を訪ね、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、文化財への愛護意識を啓発する目的で実施した。

【1回目・2回目】都城方面の史跡めぐり

開催期日	①令和元年 9月14日(土) ②令和元年11月16日(土)
見学地	去川の関跡・二見家住宅・鳥居原御立場跡・龍峯寺跡(都城島津家墓地) 平長谷一里塚バス停・上東町の田の神像
講師	みやざき歴史文化館学芸員・二見家住宅ガイドボランティア
参加者数	① 16人 ② 13人

【3回目】児湯方面の史跡めぐり

開催期日	③令和元年12月14日(土)
見学地	春日神社・新田原古墳群・都農神社・宗麟原供養塔・比木神社・福智王の墓
講師	みやざき歴史文化館学芸員
参加者数	③ 17人

※4回目は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止

(3) 体験学習

サツマイモの栽培・収穫等の農耕体験学習や昔の人々の暮らしと関連した「竹を使ったおもちゃ作り」等の製作体験学習を行うもので、子どもと保護者、一般の参加者を対象に実施した。

農耕体験学習	実施回数	3回
	参加者数	延べ 131人
製作体験学習	実施回数	21回
	参加者数	延べ 567人

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため22・23回目は中止

(4) 学校教育との連携

学校教育において体験学習が重視される中で、当館でも学校教育への支援活動を行った。主なものは、隣接する住吉南小学校「歴史文化体験クラブ」が当館を利用した体験学習(全5回)や、教育委員会の助成制度等を利用しての当館見学等(延べ15校)があった。見学の際は蓮ヶ池史跡公園内の「横穴墓」の見学や館内の「昔の道具コーナー」などの展示説明や石臼体験などの製作体験を行った。

5 イベント事業

(1) こどもの日イベント

鎧・兜の試着、紙兜作り、鯉のぼり作り、まが玉作り、竹とんぼ・鶯笛作り、史跡公園ウォークラリー、野点ほか多数のイベントを実施した。

開催期日 令和元年 5月 3日(金) ～ 5月 5日(日)

参加者数 延べ 4, 224人

(2) 夏休みイベント

① 「魚のつかみ取り」

開催期日 令和元年 8月18日(日)

内 容 当館(ひむか工房)前にプールを設置し、アユのつかみ取りを実施

参加者数 165人

② 「夏休みの楽しい工作」

開催期日 令和元年 8月11日(日)

内 容 スタンプ帳(御朱印帳)づくり

参加者数 4人

(3) 春のイベント

閉館を前に、これまでの感謝の気持ちを込めて同イベントを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止となった。

開催期日 令和2年3月1日(日) 中止

(4) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 令和元年11月27日(水)

内 容 ポップス

参加者数 子ども 32人 大人 36人 計 68人

(5) 1日こども館長(事務局経営戦略課事業)

文化財や歴史に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和元年10月20日(日) 10:00～15:00

参加費 500円(保険・昼食代込)

参加者数 5人(5年生3人、6年生2人)

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集について公共施設を中心に情報提供を呼びかける広報を行い、市民より歴史・民俗資料1件の寄贈があった。

(2) 郷土の歴史・民俗について調査・研究を行い、研究紀要として報告をまとめた。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成31年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の適切な管理運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	135日
入館者数	12,259人
1日平均入館者数	91人

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	2,686人(21.9%)
大人	9,573人(78.1%)
合計	12,259人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	11,076人(90.4%)
団体	1,183人(9.6%)
合計	12,259人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	153人(20.1%)
小学校	405人(53.3%)
中学校	0人(0%)
一般(参考)	202人(26.6%)
合計	760人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人(0%)
小学校	42人(12.5%)
中学校	0人(0%)
一般(参考)	295人(87.5%)
合計	337人

④県外団体利用内訳

一般	86人(100%)
小学校	0人(0%)
中学校	0人(0%)
合計	86人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	3	47	55.3
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	2	38	44.7
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	5	85	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	1	16	34.1
鹿児島	2	31	65.9
沖縄	0	0	0
合計	3	47	100

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元に伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館 旧阪本家

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」、明治 38（1905）年築重層入母屋造（平入）（市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1 階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2 階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「佐土原旅事情」

江戸時代の佐土原藩を中心に旅をした人物を紹介した。佐土原藩を訪れた伊能忠敬・佐々助三郎、佐土原藩から旅に出た修験僧野田泉光院や佐土原藩士 2 名の他、江戸から帰ってきた随真院の旅について取り上げた。

開催期日 令和元年 5 月 15 日（水）～ 6 月 14 日（金）

入場者数 延べ 5, 025 人

(2) 企画展「音で見るさどわら」

佐土原の民俗芸能を音を題材に展示・紹介をした。巨田神楽・だんじり・曾我兄弟踊り・いろは口説き・臼太鼓踊りを取り上げ、それぞれの活動で使われる鳴り物を紹介し、実際の様子が見てもらえるように映像も用意した。

開催期日 令和元年 10 月 26 日（土）～ 12 月 15 日（日）

入場者数 延べ 1, 052 人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 7回 (7講座)
参加者数 延べ 139人

5 イベント事業

(1) 佐土原くじら子どもまつり (共催事業)

宮崎市佐土原城の駅いろは館 (NP0 法人ドンと佐土原まちおこし隊運営) が平成27年に開館したのを機に、いろは館と共催で子どもを対象にイベントを行った。市内外の集客を図り地元佐土原を発信しながら当館のPRに努めた。

開催期日 令和元年 5月3日 (金) ~ 5月5日 (日)
入場者数 延べ 365人

(2) 佐土原花しょうぶまつり (共催事業)

佐土原花しょうぶまつり実行委員会との共催で、鶴松館裏庭の花しょうぶ園で第14回花しょうぶまつりを実施した。花しょうぶ園付近にて開会行事を行い、また野点を実施し、隣接する鶴松館では地元の音楽愛好家による楽器の演奏や唱歌等を行い、佐土原城の駅においては軽トラ市等を実施し集客を図った。

開催期日 令和元年 6月 1日 (土) ~ 2日 (日)
参加者数 延べ 3,629人

(3) 神代独楽回し大会

江戸時代から佐土原藩の下級武士の内職として作られ、端午の節句の贈答品として伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を開催した。佐土原伝統的工芸品保存会協力のもと、児童の部と一般の部に分けて、こまが回っている時間を競い、優勝者に賞品を贈った。

開催期日 令和2年 1月 5日 (日)
参加者数 35人

(4) 子どものための音楽会 (事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 令和元年 5月16日 (木)
内 容 和太鼓
演 奏 者 響座
参加者数 子ども35人、大人39人 計74人

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集

市民より地券や佐土原実科高等女学校写真等、計3点の寄贈を受けた。

(2) 資料調査

佐土原町域の民俗調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成31年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行うとともに施設の維持管理及び展示物等の確実な保存、保管を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	126日
入館者数	12,223人
1日平均入館者数	97人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	5,254人（43.0%）
大人	6,969人（57.0%）
合計	12,223人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	9,666人（79.1%）
団体	2,557人（20.9%）
合計	12,223人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	2,356人（93.3%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	168人（6.7%）
合計	2,524人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	0人（0%）
合計	0人（0%）

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	33人（100%）
合計	33人

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 開館 25 周年企画展「谷村計介～地方から見た西南戦争～」

前年度より引き続き、高岡と同じく関外 4 ケ郷のひとつである倉岡出身の谷村計介の生涯と西南戦争について紹介した。併せて、西南戦争当時の軍用品・生活用品等も公開した。

開催期日 平成 31 年 3 月 15 日（金）～4 月 14 日（日）

入場者数 延べ 4,095 人（4 月 1 日～4 月 14 日の集計）

(2) 写真展「思い出してたかおか」

旧高岡町域の白黒写真パネルを展示することで、高齢者の方には回想法のアプローチとしてまた写真から読み取れる町の変遷を学ぶ場を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止による臨時休館のため中止となった。

開催期日 令和 2 年 3 月 15 日（日）～3 月 31 日（火） 中止

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

伝統的なおもちゃを中心とした製作やかまど炊飯、ミニ門松作りなどの体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 全 7 回 参加者数 延べ 205 人

(2) 授業支援事業「くらしを支えた昔の道具」

資料館に収蔵している昔の道具を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとのくらし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対 象 宮崎市、綾町、国富町内の小学校

方 法 事前に学校へカタログを配布し、申し込みのあった学校に道具を運搬して、当方の管理下で道具の活用を支援した。授業においては、古い道具を見たり触れたりする見学体験活動を十分行ったのち、児童の質問に応じて、道具についての解説を行った。

実施回数 全 24 回実施

参加者数 延べ 1,992 人

(3) 高岡歴史かるたで遊ぼう

宮崎市高岡町の寺社仏閣・文化財・史跡・先人といった高岡にまつわる事柄を札とした高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらかるた遊びを行った。

期 間 令和元年 6 月 23 日（日）～12 月 1 日（日）※全 8 回

講 師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏（高岡小学校教諭）

参加人数 総数 72 名（大人 43 名・子ども 29 名）

5 イベント事業

(1) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催し、各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会として下記の日程で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

開催期日 令和2年3月26日(木) 中止

6 資料収集、調査・研究

資料収集としては、令和元年度の受け入れ資料はなかった。また調査・研究として高岡郷土に関する資料照会を行った。

大淀川学習館

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	284日
入館者数	177,860人
1日平均入館者数	626人

※台風による臨時休館 1日間及び午前・午後各1回

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館 23日間(3/5～3/31)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	97,918人(55.1%)
大人	79,942人(44.9%)
合計	177,860人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	160,598人(90.3%)
団体	17,262人(9.7%)
合計	177,860人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所	4,901人(56.1%)
小学校	3,764人(43.0%)
中学校	0人(0.0%)
高等学校	0人(0.0%)
大学・短期大学	27人(0.3%)
特別支援学校	51人(0.6%)
合計	8,743人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所	133人(5.8%)
小学校	2,156人(93.3%)
中学校	20人(0.9%)
高等学校	0人(0.0%)
大学・短期大学	0人(0.0%)
特別支援学校	0人(0.0%)
合計	2,309人

・ 一般団体

医療・福祉	2,783人(44.8%)
教育	1,695人(27.3%)
その他	1,732人(27.9%)
合計	6,210人

④ 県外団体利用内訳

小 人	16 人 (19.0%)
大 人	68 人 (81.0%)
合 計	84 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	1	23	27.4
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
全国	1	41	48.8
海外	1	20	23.8
合計	3	84	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

※ 「九州・沖縄」は、九州都市教育長協議会の視察

※ 「全国」は、全国川サミットの視察

※ 「海外」は、台湾

2 開館25周年記念事業

(1) 特別講演会

ジャポニカ学習帳の表紙を撮影するなど、世界をフィールドに活躍している山口進氏を講師に迎え、「ハナカマキリは二度ウソをつく～見えない擬態のおもしろさ～」と題した講演会を、レクチャ一室にて開催することで、生物や自然環境に対する参観者の興味関心を高めた。また、講演会の開催に合わせて、10年以上の長きに渡って大淀川学習館の発展に貢献のあった3名を功労者として表彰し、大淀川学習館の活動を広く周知する機会とした。

(2) 3Dシアター新番組制作

現在、保有していない海や海洋生物をテーマとした番組を作成し、自然界の山、川、海の関連性について一体的に学ぶことができるようにした。

3 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、虫眼鏡や顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行った。

動画解説を見たり、パソコンや展示機器を操作したり、通路の壁面で大淀川に関するクイズを楽しんだりすることで、常時、大淀川等について学ぶことができる展示を維持した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園^{がくしゅう}

自然楽習園^{がくしゅう}では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、平成31・令和元年度は、年間4,436頭を放蝶することで、常時50～200頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。また、学習効果を高めるために、解説板を設置した。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広くそろえ、子どもの興味や視線の高さ等に配慮して、随時、配置換えを行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境保全課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組み、平成31・令和元年度は、23頭のホタルを羽化させることに成功した。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

内 容 子どもたちが、水に親しむ遊びの文化を体験的に理解するため、身近に体験する機会や場所が少なくなりつつあるザリガニ釣りを体験できるプールを設置した。また、生命尊重や環境保全意識の向上、在来種と外来種に関する正しい知識の普及を図るため、青や白など、特殊な色のアメリカザリガニを展示し興味関心を高めつつ、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 平成31年 4月13日(土)～ 令和元年 6月 9日(日)

入場者数 延べ 42,821人

② 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシへ直に触れることができる会場を設けた。また、生態系維持の重要性や在来種と外来種に関する正しい知識の普及啓発を図るため、外国産の生体も同一会場内に展示し、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 令和元年 6月29日(土)～ 9月16日(月・祝)

入場者数 延べ 73,733人

③ 企画展 「よく見てみよう！ちょっぴりこわい生き物展」

内 容 命の尊さや新たな発見の喜びを感じて、生物の多様性を理解するため、一般的に嫌悪されがちなヘビやゴキブリ等を展示し、観察する機会を設けた。

開催期日 令和元年 9月21日(土)～10月27日(日)

入場者数 延べ 21,750人

- ④ 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ガラ・ルフアフィッシュ体験」
 内 容 生物の多様性や生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、特設プールにおいて、ガラ・ルフアに自らの角質を食べさせて、観察ができるようにし、パネル等で解説を行った。
 開催期日 令和 元 年 1 0 月 5 日（土）～ 1 1 月 4 日（月・祝）
 入場者数 延べ 1 5, 0 0 6 人
- ⑤ 企 画 展 「変身しよう！ みんなの寝ころびアート展」
 内 容 SNSフォトスポット需要の高まりを受け、乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけを作るため、自然を感じつつ、写真撮影を通した文化活動にも触れることができる会場を設けた。
 開催期日 令和 元 年 1 1 月 1 6 日（土）～ 1 2 月 1 5 日（日）
 入場者数 延べ 6, 2 0 9 人
- ⑥ 企 画 展 「県産材積み木で遊ぼう！」
 内 容 身近な素材のよさを体感しつつ、家族や友達と創造力を働かせ、コミュニケーションをとりながら作業をする良さを経験する場として、宮崎県産材製の「からから積み木」を約 2 0, 0 0 0 個準備し、自由に作業できる会場を設けた。
 開催期日 令和 元 年 1 2 月 7 日（土）～ 令和 2 年 3 月 2 5 日（水）
 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる臨時休館に伴い 3 / 5 ～ 3 / 2 5 は中止
 入場者数 延べ 2 1, 2 8 4 人
- ⑦ 企 画 展 「幸せかもん！カメカメ展」
 内 容 ことわざや慣用句などにも用いられ、生活になじみの深いカメと人とのつながりについて考える契機をつくるために、生体展示ホールに特設コーナーを設け、一カ所で多種多様なカメを観察することができるようにした。
 開催期日 令和 元 年 1 2 月 2 1 日（土）～ 令和 2 年 1 月 1 3 日（月・祝）
 入場者数 延べ 4, 9 0 6 人
- ⑧ 企 画 展 「カラー魚拓への誘い」
 内 容 生物の観察に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、魚の色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓を、地元愛好家の協力を得て展示した。
 開催期日 令和 2 年 1 月 9 日（木）～ 2 月 1 1 日（火・祝）
 入場者数 延べ 1 0, 1 7 3 人
- ⑨ 企 画 展 「春一番！ひな山展」
 内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。
 開催期日 令和 2 年 2 月 1 日（土）～ 3 月 3 日（火）
 入場者数 延べ 1 0, 2 8 5 人

(4) 作品募集と展示

① 作品展 第19回 大淀川流域の写真展

内 容 郷土のよさを知り、郷土を愛する心を育むために、写真撮影を通した、大淀川流域の身近な自然や文化財等を見つめ直す機会を設け、他者の視点から見た気付きを理解するために、募集した写真を展示した。

応募数 503点

開催期日 令和元年 9月10日(火)～ 9月29日(日)

入場者数 延べ 10,167人

② 作品展 第25回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展

内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品を展示した。

応募数 2,047点

開催期日 令和元年10月 5日(土)～11月10日(日)

入場者数 延べ 17,319人

(5) 川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、6本のオリジナル番組(A大淀川の自然を訪ねて、B大淀川の水と生き物たち、C大淀川の生い立ちと生き物、D母なる川～大淀川～、E大淀川水辺のおさんぽ、F大淀川の虫たち)を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 1,270回

観覧人数 延べ 27,025人

① 定常上映

平日は一日5回、土日祝日及び小中学校の夏季休業期間は一日6回、定時に上映した。

② 特別上映

団体の来館時間に応じて、また、都合がつく限り番組も調整して上映した。

(6) 里山^{がっこう}の楽校

古来より、人は、里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、教室事業等において活用を図った。また、学習支援に利用する地層コーナーや、自然楽習園を維持するために必要な第2食草園についても一体的に管理している。

4 学校対応事業

学校、幼稚園等の教育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として実施した。

(1) 授業支援

対 象 小学校等

実施回数 16回

参加者数 延べ 1,614人

内 容 チョウの生態や地層等の学習について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 23人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、講義や演習を行った。

5 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象 子ども会・PTA・学童保育等

実施回数 15回

参加者数 延べ 562人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行った。

(2) 出前授業等

対 象 児童館や地域づくり協議会等

実施回数 20回

参加者数 延べ 1,693人

内 容 植物を使ったものづくりや野外活動・生き物の講座を行った。また、子育て応援フェスティバル等での出前講座も行った。

6 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上

実施回数 5回

参加者数 延べ 157人

内 容 「ホテル環境教室」「川の生き物で水質調査」を春と夏に計2回「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を行った。また、「自然体験教室 昆虫博士になろう！」を市環境保全課と共催した。

(2) 飼育・観察教室

対 象 小学生以上

実施回数 4回（※「バスで行くオオムラサキ自然観察会」は、通行止めにより中止）

参加者数 延べ 159人

内 容 「メダカの飼育・観察教室」「明りに集まる昆虫観察会」「カブトムシ・クワガタムシの飼育教室」「水辺の生きもの観察会」を行った。

(3) 活動教室

対 象	小学生以上
実施回数	2回 (※「ミツバチのハチミツをあつめよう!」は、雨天により中止、「シイタケの駒打ちをしよう!」「食べられる野草をさがしてみよう!」は、感染症拡大防止措置及び臨時休館期間のため中止)
参加者数	延べ 65人
内 容	「アユの稚魚放流しよう!」「ハーブティーを楽しもう!」を行った。

(4) ものづくり教室

対 象	小学生以上
実施回数	8回
参加者数	延べ 201人
内 容	「昆虫標本を作ろう!」「植物標本を作ろう!」「貝がらで工作しよう!」「植物でウェルカムボードを作ろう!」「野鳥の巣箱を作ろう!」「まつぼっくりでクリスマスツリーを作ろう!」「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう!」「カラー魚拓を制作しよう!」を行った。

(5) 園児教室

対 象	幼稚園や保育園、子ども園等の園児
実施回数	24回
参加者数	延べ 1,131人
内 容	生体を見たり触れたりする活動や簡単な工作活動、県産材を使った積み木体験を行った。

7 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として行った。

(1) 季節のイベント

対 象	全来館者 (内容により年齢制限を設けているものもある)
実施回数	13回
参加者数	延べ 785人
内 容	「水辺の楽校!植物の名前当てに挑戦しよう!」「カブトムシの幼虫を育てよう」「カブトムシ・クワガタムシのクイズ大会」「カブトムシの木登り大会」「クワガタムシのすもう大会」「小魚すくい大会」「ミニつり大会」「ふれあいもちつき大会」「昆虫輪投げ大会」「大淀川学習館クイズ」「下北方保育園とおいもほり」「クリスマスコンサート」「積み木でドミノコンテスト」を行った。

(2) ふれあいウィークエンド

対 象	全来館者
実施回数	26回
参加者数	延べ 1,012人
内 容	「ミニ鯉のぼりを作ろう (2回)」「新聞紙でかぶと飾りを作ろう (2回)」「針金アメンボを浮かせよう (2回)」「紙コップでゲコゲコガエルを作ろう (1回※計2回計画、1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時閉館のため中

止)」「折り紙で水族館をつくろう(2回※計3回計画中、1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時閉館のため中止)」「七夕飾りを作ろう」「カブトムシを捕まえて育ててみよう」「紙コップで鳴きセミをつくろう」「カブトムシ・クワガタムシの切り紙(1回※計2回計画中、1回は台風接近による臨時休館のため中止)」「カブトムシ・クワガタムシの折り紙(3回)」「紙コップで工作しよう」「タネ模型を飛ばそう」「木の実でクリスマスツリーを作ろう」「折り紙でミニ門松を作ろう」「カブトムシの幼虫を大きく育てる方法を知ろう」「節分飾りを作ろう」「紙コップで鳥のおもちゃを作ろう」を行った。

(3) 講演会

平成31・令和元年度は、25周年記念事業の特別講演会として実施

8 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育園等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校

幼稚園	68団体	延べ来館者	2,480人
保育園	68団体	延べ来館者	1,829人
幼保連携型認定こども園	28団体	延べ来館者	734人
小学校	77団体	延べ来館者	5,920人
中学校	6団体	延べ来館者	36人
高等学校	1団体	延べ来館者	3人
特別支援学校・大学・短大	10団体	延べ来館者	93人
合 計	258団体	延べ来館者	11,095人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館のこどもの日無料開館に合わせ、科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配布し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫(館にて採卵又は採集の後、飼育したもの)をプレゼントした。

開催期日 令和元年5月6日(月)

参加者数 子ども 37人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

期 日 令和2年1月24日(金)

内 容 乳幼児向けにギターと打楽器の伴奏による音楽会を開催した。

参加者数 子ども 15人、大人 17人 計 32人

(4) 1日こども館長（事務局経営戦略課事業）

河川及びその周辺の自然等に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和元年11月30日（土） 10:00～15:00

参加費 500円（保険・昼食代込）

参加者数 4人（4年生1人、5年生3人）

(5) 各種関係団体との連携（ ）内は団体等の名称

- | | | |
|-------------------|------|-----------------------|
| ①アユの稚魚を放流しよう | 実施日 | 令和元年 5月11日（土） |
| （宮崎県内水面振興センター） | 入場者数 | 子ども 29人、大人 22人、計 51人 |
| ②バスで行くオオムラサキ自然観察会 | 実施日 | 令和元年 7月 7日（日） |
| （宮崎昆虫同好会） | 入場者数 | 雨天のため中止 |
| ③明りに集まる昆虫観察会 | 実施日 | 令和元年 7月 6日（土） |
| （宮崎昆虫同好会） | 入場者数 | 子ども 33人、大人 27人、計 60人 |
| ④自由研究にぴったり！浄水場見学 | 実施日 | 令和元年 7月30日（火） |
| （宮崎市上下水道局：富吉浄水場） | 入場者数 | 子ども 21人、大人 15人、計 36人 |
| ⑤下北方保育園とおいもほり | 実施日 | 令和元年10月31日（木） |
| （下北方保育園） | 入場者数 | 子ども 19人、大人 4人、計 23人 |
| ⑥クリスマスコンサート | 実施日 | 令和元年12月15日（日） |
| （宮崎市立宮崎北中学校） | 入場者数 | 子ども 56人、大人 65人、計121人 |
| ⑦ふれあいもちつき大会 | 実施日 | 令和元年12月21日（土） |
| （水源地団地自治会） | 入場者数 | 子ども 61人、大人 45人、計106人 |
| ⑧カラー魚拓を制作しよう | 実施日 | 令和 2年 2月 9日（日） |
| （色彩魚拓画会） | 入場者数 | 子ども 4人、大人 11人、計15人 |
| ⑨しいたけの種駒打ちをしよう | 実施日 | 令和 2年 3月 1日（日） |
| （宮崎中央森林組合） | 入場者数 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 |

(6) 情報提供と広報活動

ICT（情報通信技術）を積極的に活用し、SNS（ブログ、フェイスブック）を用いた情報提供や広報活動を行った。

宮崎市広報誌、宮崎市教育委員会広報誌において、大淀川学習館の紹介をしていただいた。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」の36号(令和元年8月号)～41号(令和4年2月号)まで、宮崎市役所のYouTubeチャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に全面協力することとなっている。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

令和元年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて初年度となる。管理運営については「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針を定め、利用者サービスの向上による利用者増対策に取り組むとともに、利用者が安全・快適に利用できるよう施設の管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開 館 日 数	310 日
入 館 者 数	222,623 人
1 日 平 均 入 館 者 数	718 人

(2) 利用内訳

- ・ 1 階 オルブライトホール 55,540 人 (利用率 81.86%)
- ・ 4 階 ギャラリー 42,629 人 (利用率 87.14%)
- ・ 4 階 練習室① 13,502 人 (利用率 80.58%)
- ・ 4 階 練習室② 3,614 人 (利用率 88.67%)
- ・ 4 階 大会議室 17,606 人 (利用率 88.39%)
- ・ 4 階 中会議室 9,552 人 (利用率 91.26%)
- ・ 4 階 小会議室① 5,740 人 (利用率 89.64%)
- ・ 4 階 小会議室② 4,897 人 (利用率 88.67%)
- ・ 4 階 和室 4,406 人 (利用率 88.35%)
- ・ 4 階 学習室 6,215 人 (利用率 83.82%)
- ・ 2 階 プレイルーム／1 階 授乳室 466 人
- ・ 1 階 カフェクレイン 6,323 人
- ・ 1 階 エントランス 7,415 人
- ・ 3 階 宮崎市民活動センター 31,387 人
- ・ 3 階 各団体室 5,099 人
- ・ ホール打合せ 383 人
- ・ ギャラリー打合せ 151 人
- ・ 窓口受付 7,306 人
- ・ 視察者等 392 人 (62 団体)

合計 222,623 人

※令和2年2月4日(火)～3月23日(月) ホール音響舞台設備更新工事

※令和2年3月6日(金)～3月31日(火) 利用制限(新型コロナウイルス感染拡大防止)

2 文化芸術企画事業

文化芸術企画事業については、「市民文化の振興」「若い世代へのアプローチ」「文化芸術活動への支援」の3つの取組方針を定め、鑑賞型や創造・参加型、普及・育成型などの様々な形で事業に取り組み、公益目的事業の更なる推進を図った。

(1) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうため、乳幼児と保護者を対象にコンサートを実施した。

- ・開催日時 令和元年7月11日（木） 10:30～11:10
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 スイートクローバー
- ・入場料 無料
- ・入場者数 164人（子ども86人、保護者78人）

(2) 夏休み！バックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側を見学体験し、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・開催日時 令和元年7月23日（火） 18:30～20:00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加費 無料
- ・参加者数 42人（子ども20人、保護者22人）

(3) 第13回市民プラザコンサート 和の奏～麗しの月に寄せて～

気軽に楽しめる趣向を凝らしたコンサートの開催を通して音楽文化の振興を図るため、「和」をテーマに様々な編成・形態のアーティスト3組によるコンサートを実施した。

- ・開催日時 令和元年8月31日（土） 17:30開場 18:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 久嶋美さち、^{リコネクト}Re:connect、絲月&永吉愛、宮崎県立宮崎南高等学校書道部、日本舞踊坂東流
- ・入場料 予約席／前売1,200円
一般席／前売1,000円（当日1,200円）
- ・入場者数 241人

(4) 子どものための文化芸術体験プログラム（アウトリーチ事業）

子どもたちの文化芸術に対する関心を高めるとともに、文化芸術体験を通して子どもたちの豊かな感性を育むため、アーティストや演劇団体を学校へ派遣してアウトリーチを実施した。

①演劇プログラム

- ・開催日時 令和元年10月8日（火） 8:40～12:10
- ・場 所 宮崎市立広瀬小学校
- ・派遣者 濱田明良・吉丸裕美（^{チック タック パーク}tick tack park）、黒木朋子（宮崎県演劇協会）
- ・参加者数 124人（4年生児童）

②音楽プログラム

- ・開催日時 令和元年10月18日(金) 14:10～14:55
- ・場 所 宮崎市立生目小学校
- ・派遣者 ^{ジャーンズ}
JARNZΩ
- ・参加者数 118人(3年生児童)

(5) 桂歌春の落語教室(アウトリーチ事業)

「市民プラザ寄席」のプレイベントとして、宮崎県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流し、古典芸能の落語を体験して身近に感じてもらうため、桂歌春さんを学校へ派遣してアウトリーチを実施した。

①宮崎市立清武小学校

- ・開催日時 令和元年10月25日(金) 10:10～11:05
- ・参加者数 105人(6年生児童)

②宮崎市立小松台小学校

- ・開催日時 令和元年10月25日(金) 13:50～14:45
- ・参加者数 108人(6年生児童)

(6) 市民プラザ寄席「正蔵・歌春二人会」

気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めるため、宮崎県出身で落語家の桂歌春さんと、人気落語家の林家正蔵さんによる二人会を実施した。

- ・開催日時 令和元年11月24日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 林家正蔵、桂歌春、ぴろき、林家たま平
- ・入場料 予 約 席／前売3,500円
自由席一般／前売3,000円(当日3,600円)
自由席学生／前売2,000円(当日2,400円)
- ・入場者数 275人

(7) 1日こども館長(事務局経営戦略課事業)

文化芸術に興味関心を持ち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に「市民プラザ寄席」公演での職場体験を実施した。

- ・開催日時 令和元年11月24日(日) 10:00～15:00
- ・場 所 オルブライトホール(市民プラザ寄席)
- ・参加費 500円(保険・昼食代込)
- ・参加者数 4人(4年生1人、5年生3人)

(8) 創作ジュニア・ミュージカル「海幸と山幸」

若い世代の幼少期から培われてきた豊かな想像力や表現力、コミュニケーション力をさらに育むため、県内の小学生から大学生までの若い世代をキャストに起用し、宮崎の神話伝承をモチーフにした新たなミュージカル作品を創作した。

- ・開催日時 令和2年1月18日(土) 13:30開場 14:00開演
令和2年1月19日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 50人(一般公募で選出)
- ・入場料 大人(大学生以上)／前売2,000円(当日2,400円)
小人(3歳～高校生)／前売1,500円(当日1,800円)
- ・入場者数 18日(土)418人、19日(日)469人

3 企画推進委員会

地域の文化芸術団体や文化NPO、マスコミや大学教授など11人の方々に委員を委嘱し、様々なジャンルの団体との意見交換やヒアリング等により事業に対するニーズの把握に努めるとともに、文化芸術企画事業及び自主事業(開館周年記念事業)に対するアドバイスやサポートをいただき、年間事業計画策定の参考とした。

(1) 第1回委員会

- ・開催日時 令和元年11月26日(火) 10:30～12:00
- ・場 所 市民プラザ4階中会議室
- ・内 容 ①令和元年度市民プラザ文化芸術企画事業上半期の実施状況について
②令和2年度市民プラザ主催事業年間計画(案)について

(2) 第2回委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止による施設利用制限のため中止